

プレイ終了後、受付エリアに戻ってきた主人公をシオリが迎える。

【シオリ】 おつかれさまでした。

【シオリ】 どうぞ、こちらで少しお休みください。いまお茶をお入れしますね。

主人公、シオリに促されてソファに座る。

シオリは応接セットの脇でお茶を淹れ始める。

【シオリ】 いかがでした、リオナ様は。

主人公、リオナをほめちぎる。

【シオリ】 ええ……………ええ……………。え、そんなに？ そんなにすごかったんですか？ 確かにまあ、大人びた子だなあとは思ってましたけど…………。教育するどころじゃなかっただなんて…………。

【主人公】 それからあとひとつあるんだけど。

【シオリ】 あとひとつ、はい、なんでしょう

【主人公】 リオナ様、絶対にやめさせないでね。

【シオリ】 絶対に…………やめさせないで…………ですか。それはまあ…………リオナ様次第というかなんというか…………。

【シオリ】 いまのところご好評をいただいていますし、他の女王様ともうまく交流できてるみたいですし…………大丈夫ではないでしょうか。

【シオリ】 といいますか、はあ……………

【シオリ】 まあ…………やめておきましょう。

【主人公】なんだい、気になるよ。

【シオリ】いいえ、別に。なんでもございません。男の人って、やっぱり若い子の方が好きなのかなって思っただけです。

【シオリ】はい、どうぞ。カモミールティーです。

【主人公】あ、ありがとう。

【シオリ】次のご予約、お待ちしておりますね。もちろん、リオナ様で。くすくすっ。